

## 野の仏ギャラリー⑬ 勢至菩薩坐像

南多久町大字長尾

大きな板状の石材の上面を円形に彫り窪め、その中に石仏を浮き彫りにしています。頭上に宝冠を載せ、正面で合掌しています。石仏の足元付近に、円周の一部を利用し、三日月を表しています。石仏の坐像の下には蓮弁、その下に四つの渦文を刻んでいます。石仏を含む構図や銘文の日付から二十三日夜待に關わる月待塔と考えられます。  
銘「勢至菩薩」他人名「世話人牟田重次郎」天正七年三月廿三日



○仏教には三千日秘仏という考え方があり、二十三日は勢至菩薩を本尊としています。

○二十三夜などの月夜を待つ行事(信仰)があり、講の仲間が月待塔を造立する例が各地にあります。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

## 今月の論語

絵のことは  
素きを後にす

絵をかくとき、白色顔料は後からする。人間の場合も素質をまず大切にして、あとから礼儀を身につける。

今月の帰宅放送は、東原岸舎東部校9年の荒島陽菜さんです

教育長コラム

ちよっとい話



## 「理解」

40年前、県立特別支援学校に勤めた。社会科見学で、生徒の乗った車を押してデパートに入ったとき、私たち集団は突き刺さるような視線を浴び、進行方向の人垣がさっと左右に分かれて道ができた。通りやすいように配慮してくださった方々も多いが、そうでない方もなかにはあった。楽しみで眠れなかった生徒たちは、喜んで声を発し身体をゆすった。それがまた注目を浴びた。  
この視線を浴びながら生きるのか、と胸にこみ上げるものがあり、一層愛おしくなった。  
身体的なハンディやあらゆる障がいのある方々への理解は、充分とは言えないけれども理解が進んできた。しかし、どなたでも気軽に歩けるような、ソフト面、ハード面共に配慮ある社会になっていくだろうか。  
予定ならばパラリンピックがこの国で開催されていた時期だ。

教育長 田原優子

## 市民文芸

### 短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ 子雀に何度も餌を口うつし  
無心に続く親の心よ 浦野 嘉恵
- ◆ 露草の藍色小花は目に沁みて  
草むらかけにこの夏も咲く 川浪 信子
- ◆ 生きるのがしんどい時もあつたけど  
夢が背中を押してくれたよ 野崎 隆幸
- ◆ 不器用なわれを励ます友がいる  
老々介護も笑顔で生きる 梶原恵美子
- ◆ セザンヌの画室の庭より描きたる  
サントピクトアール山の素描の若き 尾形 節子

### 俳句 《互選》

- ◆ 天山を洗ひ尽くしぬあばれ梅雨  
おおやはな 四田の山 武富 律子
- ◆ 梅雨深し日々に濃くなる  
片隅で負けじと伸べる余り苗 中嶋 清子
- ◆ 引出しの異国のコイン 花杏子 富樫 明美
- ◆ 終日の雨にこぼるる柿の花  
本村 則子

### 川柳 《多久川柳会互選》

- ◆ 世界は一つ 教えてくれた新コロナ  
松下 修
- ◆ コロナ二波 一喜一憂棒グラフ  
高塚ちかこ
- ◆ コロナ禍に茅の輪の巡り 念を入れ  
中尾 和弘
- ◆ 暗闇の一匹の蚊が眠らせぬ  
田代まつこ
- ◆ 肩組んで校歌で閉じる 同窓会  
三塩不二子